

医療機関報告のうち、中外製薬(株)からの報告と重複しないものの概要(精神神経症状)(その2)
(平成19年3月21日から4月17日までに報告されたもの)

性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要
男	70歳代	150mg		譫妄	インフルエンザ検査は陰性であったが、インフルエンザを疑い本剤を処方。その2日後、肺炎をおこし入院。本剤の服用は、その日の朝まで中止。その後、虫が見えたり、天井に吸い込まれたり、お金をとられたり of せん妄状態となる。
男	10歳未満	87mg	セラペプターゼ カルボシステイン 塩酸プロムヘキシン	興奮	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。昼寝の途中で覚醒、興奮。大声を出す。夜間興奮し、部屋中を走り廻り、大声でわめき続ける。目つきも異様。2階の部屋から階段のほうへ突進するのを家族が抱いて制止。翌朝、服用中止。興奮も治まる。
女	60歳代	150mg		動悸	インフルエンザB型陽性と診断され、リン酸オセルタミビル処方。2日後、激しい動悸が出現した為、リン酸オセルタミビル中止。3日後、動悸症状軽快。
男	10歳未満	45mg		譫妄、幻覚	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。翌日、昼寝から起きたら、床に膝立ちになり床を両手でたたきつける。(さけびながら)約20分つづく。その翌日も、昼寝から起きたら同じように泣きわめく。
男	10歳未満	117mg		幻覚	インフルエンザBと診断し、夜、リン酸オセルタミビル服用。服用2時間半後、幻覚。翌朝も幻覚あり。
女	70歳代	150mg	アセトアミノフェン	意識消失	インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル75mg 2回服用。さらにアセトアミノフェンも服用。翌早朝、意識消失あり。
女	10歳未満	90mg	アセトアミノフェン セフテラムピボキシル	悪心、浮動性めまい	インフルエンザと診断され、朝リン酸オセルタミビル服用。体温39.8℃嘔気あり、夕方に服用 体温39.2℃。夜、めまい、悪心出現。30分～1時間くらい持続後おちつき就寝。
女	10歳未満	70mg		異常行動	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。翌日、解熱傾向となった時に寝ながら大声で叫んだ。
男	10歳代	150mg		浮動性めまい	インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。服用のたびにぐったりとなり、めまい出現。
男	50歳代	記載なし	ベシル酸アムロジピン ジゴキシン アテノロール オルメサルタン ベサフィブラート アロプリノール ウルソデオキシコール酸 ワルファリンカリウム	悪夢	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。翌日、寝ているとき「女の人が3人出てきて殺されそうになった」との事。夢が現実かわからずにいた。特に異常行動はなかった。
男	10歳代	150mg		異常行動	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル75mg1回分服用。しばらくしてアセトアミノフェン300mg服用後異常なことを言いだした。2回目のリン酸オセルタミビルを服用後は、親が腕をおさえていないと危険な状態だった。
女	10歳未満	64.8mg		異常行動	A型インフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル32.4mg1回目服用。しかし10分後に嘔吐して母の話では7～8割以上は出てしまったとのこと。しかし服用2時間後に、ケラケラ笑い布団の上で小さな虫を追う様な行動をとり呼びかけにも反応なく5分程で正常となる。

医療機関報告のうち、中外製薬(株)からの報告と重複しないものの概要(精神神経症状)(その2)
(平成19年3月21日から4月17日までに報告されたもの)

性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要
男	10歳未満	150mg		健忘 異常行動	インフルエンザA型の診断。夕方、リン酸オセルタミビル服用後記憶障害、異常行動、奇声を認める。一過性で翌日軽快。
女	70歳代	150mg		幻覚 譫妄	リン酸オセルタミビル投与開始、翌日には解熱。投与開始4日目と5日目の深夜、夫の病室を訪れ退院したが。その後病室を出て自宅に帰る。夫が入院していたことを忘れていた。その3日後に回復。
男	10歳未満	80.04mg		ねごと	リン酸オセルタミビルを服用した日の夜、寝言。(起きている時みたいに話す。こっちから問いかけると対話しているように話す。でも寝ている。)
男	10歳前後	88.5mg	アスコルビン酸	下痢 おくび 幻覚	インフルエンザと診断。服用当日より、軽い下痢、げっぷおよびものがゆがんで見えた。
女	10歳未満	64.35mg		痙攣	リン酸オセルタミビル処方。翌日、高熱続く(40~41度)。両手の震えを観察。(手が勝手にピクピクと動き出した)。翌々日、熱が下がるとともに症状が落ち着く。
男	80歳代	150mg	セフジニル、カルボシステイン	幻覚 浮動性めまい 幻聴	リン酸オセルタミビル処方。頭上げるとふらつき発現。2日後、左耳のみ聞こえ方がおかしい。自分の声が響く。赤ちゃんの泣き声が響くと訴えあり。ふらつき持続。3日後、猫がみえるとの幻覚あり。酸素カニューレから赤ちゃんの声聞こえるとの幻聴もあり。
男	10歳未満	90mg		浮動性めまい	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。2回目服用後、歩くとめまいがするとの訴え。40.2℃の発熱あり。翌日、熱は下がったが、めまいの訴えあり、本剤中止。翌日、再度38℃台まで発熱。家がゆがむとの訴えあり。
男	10歳前後	78mg		譫妄	インフルエンザの診断にてリン酸オセルタミビル服用開始。夜半、うなされて意識がもうろうとなる。よびかけてもはっきりせず、母親が異常行動を疑い、本剤中止。意識回復。
男	10歳前後	164mg		悪夢	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。服用後、悪夢にうなされる。翌日も服用後、悪夢にうなされる。服用中止後は回復。
女	10歳未満	36mg		痙攣	インフルエンザにてリン酸オセルタミビル処方。服用開始翌日、寝ている時、痙攣の様にピクピクする。その翌日熱が下がり、自己中止。その後痙攣なし。
男	10歳未満	42mg		低体温 不安感	インフルエンザAにてリン酸オセルタミビル服用。低体温。その後父親をみてすごく怖がる。不安になり自己中止。その後症状なし。
男	10歳前後	150mg		鎮静 悪心 下痢	インフルエンザA型でリン酸オセルタミビル服用し、すぐ、ふとんの上に大の字になってボンヤリしている。応答なし。吐き気もあり。翌朝、下痢。
女	10歳未満	70mg		不安	インフルエンザA型により、夕方、リン酸オセルタミビル服用。その夜、こわい夢を見た感じで、とても不安がっている様子。症状はこの日だけ。5日間飲みきった。

医療機関報告のうち、中外製薬(株)からの報告と重複しないものの概要(精神神経症状)(その2)
(平成19年3月21日から4月17日までに報告されたもの)

性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要
男	10歳未満	82mg		痙攣 幻覚	インフルエンザA型と診断。リン酸オセルタミビル服用後、言動、行動がおかしく、幻覚症状とけいれん(震え)あり。翌朝も内服1時間後にけいれん様の震え、異常言動あり。同日夕方、本剤服用後30分で震えあり。翌日から薬の服用中止。
女	60歳代	300mg	臭化水素酸デキストロメト ルファン	意識消失	リン酸オセルタミビル処方後翌朝、食事中、腹痛、気分不快になり、5分程度意識消失。尿失禁もあり。その後回復。
女	20歳代	150mg		幻覚 幻聴 頭痛	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。2回目服用後、臥床。頭痛激しく、夢か現実か分からない状態で幻覚に基づく異常行動をしていた(内容の詳細不明)。翌朝回復。
女	100歳代	150mg		幻覚	前日より、39.5℃。午後4時にリン酸オセルタミビル服用。夕より幻覚出現。発熱は軽快。投与2日目、幻覚あり、発熱なし。リン酸オセルタミビル継続。投与3日目、幻覚あり、発熱なし。リン酸オセルタミビル中止。その翌日、幻覚減少、発熱なし。
女	10歳未満	84mg		異常行動	リン酸オセルタミビル服用後、寝ている時に起き上がり、ズボンを脱ぎ出した。その後再度来院、異常行動なし。
女	10歳未満	45mg	ソプロテロール、セフジニ ル、耐性乳酸菌製剤(3)、ヒ ベンズ酸チペピジン、カル ボシステイン、フマル酸クレ マスチン	鼻出血	投与1日目、リン酸オセルタミビル服用30~40分後、鼻出血。家族がリン酸オセルタミビルを疑い休薬。休薬後発熱おさまらず、再度3日後に服薬させた後、再び鼻出血。その間39℃の発熱あり。
女	90歳代	150mg		異常行動	投与開始3日後、はだして外へ飛び出そうとしたので、家族がドアを開めたが、その後も興奮状態で、家の中を動き回ったり訳のわからないことを叫んだりしていた。一晩で症状はおさまった。
女	10歳代	150mg	ドンペリドン、マレイン酸クロ ロフェニラミン、絡酸菌製剤	大発作痙攣、意識変容 状態	来院時(午前中)38.5℃。インフルエンザと診断し、帰宅後タミフル1カプセル内服。この時、40℃。昼異常なし。21時半から22時に2階から1階に降りようとして「こわいこわい。」とさけびだし、両手を広げバンバン壁をたたき、その後けいれんを1分間起こした。5分後、会話ができるようになったが、「こわいこわい。」といていた。
女	50歳代	150mg		異常行動	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。3日目、入眠中に本人の日常の仕事である介護の仕事をしている夢をみて、動いていた。その後、入眠、さらに一時間後同じ行動をとった。
男	10歳代	150mg		錯乱状態	インフルエンザB型で、リン酸オセルタミビル投与開始6日目頃より、行動に統合性がなくなった。意識は清明、見当識あり。だが、会話に混乱。神経学的には明らかな脱落症状なし。統合失調症をうたがいが精神科紹介となる。
女	80歳代	75mg		異常行動	初回投与日の夜中0時頃、他の患者のベッドで寝ている。自分のベッドに戻った後、一人で廊下に出てきて階段の所に立っている。言動もおかしく見当識障害もみられる。
女	10歳未満	51mg		異常行動	インフルエンザB型で、リン酸オセルタミビル投与開始。初回内服5時間後、夜寝ている時に、ふるえ、目上転、笑う等の発現あり、母親が呼びかけても意識はなく数分後におさまり、以後普通の状態となる。これまで熱性せん妄、熱性痙攣等の発現はなし。

医療機関報告のうち、中外製薬(株)からの報告と重複しないものの概要(精神神経症状)(その2)
(平成19年3月21日から4月17日までに報告されたもの)

性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要
女	50歳代	150mg	ロキソプロフェンナトリウム、レバミピド、ジクロフェナクナトリウムサボ、サリチルアミド、アセトアミノフェン、無水カフェイン、メチレンジサリチル酸プロメタジン	意識レベルの低下 感情不安定	インフルエンザA型にてリン酸オセルタミビル服用開始。症状軽快してきたが、服用7日目の朝、頭痛し気が遠くなりそうな感じが出現。嘔吐と精神的な不安定(いても立ってもいられない感じあり)。補液、安静で軽快した。
男	10歳未満	76mg		異常行動	インフルエンザA型にてリン酸オセルタミビル2回服用後、1時間半後に眠っていて急に起きて、「何でこんなにたかいところにいるの?」といった。目をくるくるさせていた。すぐにまた寝た。(38.5℃以上あった)その後、翌日には、解熱。
女	10歳未満	80mg		異常行動	インフルエンザB型にてリン酸オセルタミビル1回目服用後、1時間後、意識がおかしかった。ベランダに出て行こうとした。(5分間)(鍵がかかっている出て行けなかった。)
男	10歳未満	84mg		異常行動	リン酸オセルタミビル内服3時間半後、睡眠中であつたが、起きて「ここから出たい、何でアカの」と発言。ベットの上を歩こうとする。母親が制止しようとするが、振り払う仕草が見られる。尿器で排尿し、その後落ち着く。再び睡眠。一時間後、体温39.5℃。母親より本人は覚えていないとの訴えあり。
女	80歳代	150mg		譫妄	前日夜よりリン酸オセルタミビル服用。翌日夕方、天井に蛇がいる。水が流れている等の異常言動あり。翌々日の朝、昼にもあり。リン酸オセルタミビルは翌々日朝で中止。夕方より異常言動消失。
女	60歳代	150mg	アセトアミノフェン	うつ病	インフルエンザB型でリン酸オセルタミビル処方。本剤内服後、うつ状態となり、死にたいという気持ちが強くなり、手首を切ろうかと思いつめた。2日間内服したが、あまりに症状がきついたので内服をやめる。服用中止後、症状は軽快してきたが、いまだにうつ状態が抜けきらない。
女	20歳代	150mg		意識混濁	インフルエンザA型でリン酸オセルタミビル服用。数時間後うわごと、フラフラと無意識に歩行(この段階では高熱状態継続)。
男	70歳代	150mg		意識消失 嘔吐	服用2日目朝、意識消失し、倒れているのを発見された。
男	30歳代	75mg		衝動行為 肝障害	夕方一回服用。夜間、外に走り出したいという強い衝動が起きたが、そんなことをしたら子供が恥ずかしがるからと思い、家の中の階段を10回ほど昇ったり降りたりして衝動を抑えた。3日後、当院受診し、肝障害、筋酵素上昇にて5日後より入院となった。入院中も高熱が続いたが、精神症状の出現はなかった。
男	10歳代	52.5mg		異常行動	インフルエンザ陽性と診断され、リン酸オセルタミビルを夕方一回服用させて寝かせつけたところ、1時間後に突然起きて、外に出ようとした。その後も家の中をふらふらとしていた。服用中止し、翌朝まで寝かせつけた。翌日本人は憶えていない。
男	10歳未満	75mg		落ち着きのなさ	インフルエンザA型陽性と診断され、リン酸オセルタミビル服用。1回目服用後、母が枕元で掃除機を使用したところ、その音に驚き「何かが襲ってくる助けて」と不穏状態。約1時間で消失。2回目以後は特に問題なし。

タミフル非使用例の「異常な行動」等について(平成19年4月3日～4月17日までに入手できたもの)(その2)

No.	報告日	性別	年齢代	1日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考
1	20070403	男性	10歳代			異常行動	本年3月9日。インフルエンザB型。深夜、トイレに起きて別方向の窓(3階)を開けて出ようとしたため、家人が押さえた。その後別の窓を開け、再び出ようとしたため、家人が取り押さえ事なきを得た。本人はその時の記憶あり。	医療機関からの報告
2	20070403	女性	70歳代			譫妄、激越	本年3月28日。インフルエンザA型と判明。探し物をしてあちこちの棚を開け、制止し臥床させても起き出して行動を始める。足下はフラフラしており、探し物をする手も少し震えていた。話しかけても理解できない様子。	医療機関からの報告
3	20070403	男性	10歳代		ザナミビル水和物	幻覚、異常行動	本年3月22日。インフルエンザB型。1回目の吸入の数時間後、「誰がいる」など幻覚症状出現(体温38.9度)。2回目の吸入後、深夜、幻覚症状増悪。「外を見てくる」と言ってベランダに走って行った。家族が取り押さえた(体温40度近く)。	医療機関からの報告
4	20070403	男性	10歳未満			異常行動	本年3月末。インフルエンザA型と判明。体が浮くような感じがしてベランダに登りかけたところを家族が制止。	医療機関からの報告
5	20070403	女性	10歳代			異常行動	本年3月25日。インフルエンザA型と診断。夜、2階から降りてきて、道路に出て行くことするので、家族が必死で制止し、なんとか押さえつけることができた。	医療機関からの報告
6	20070405	女性	10歳代		なし	譫妄 幻視	本年3月23日。インフルエンザA型と診断されたが、リン酸オセルタミビル等抗ウイルス薬は処方せず。夜、39～40℃となった。トイレで何かを追い払うような仕草でバタバタしている事に家人が気付いた。部屋につれてきててもカレンダーを指示し虫がいるかのように振舞った。表情は眼を見開き、口がゆがんでいた。	医療機関からの報告
7	20070406	女性	10歳代			激越 譫妄	ザナミビル水和物処方後、押さえ込まないと暴れたり、大声を出したりする。「死にたい」「窓から落として」などと口走ったり、2階の窓から身を乗り出そうとするので、30分間抑えていた。その後、ザナミビル水和物吸入しても症状の発現はなかった。	医療機関からの報告
8	20070406	男性	10歳代			異常行動	本年3月25日。インフルエンザA型と判明。翌日夜39.9℃の発熱。急に起き上がり部屋から出て、他の部屋へ出入りする。焦点は定まらず。意思の疎通できず夜中に3度座り込み、笑い出す。朝、本人は昨晚のことがほとんど記憶にない。	医療機関からの報告
9	20070409	男性	10歳代			異常行動	本年3月5日。夜に妙なことを言う。翌朝5:30から発熱(39.2度)により、受診。臨床的にインフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル投与したが服用せず。昼頃、おびえだし、観察していたところトイレへ走り便器に顔を突っ込むようなしぐさで「死にたい」などと言っていたので親が制止した。	医療機関からの報告

No.	報告日	性別	年齢代	日用量	併用薬	副作用	経過の概要	備考
10	20070410	男性	10歳代			異常行動 譫妄	以前より誰かに追いかけるような感覚を伴う怖い夢を見ることあり。 本年3月5日。発熱および感冒症状を認めたが、リン酸オセルタミビルを含む薬物の処方を受けていなかった。翌朝4時過ぎより譫妄による怯え。また、その日の夜は平素と変わらぬ様子で入眠するが、夜中、自宅(3階)より転落し、現場で膝を抱えて座って叫んでいる状態を家人が発見。本人に転落前後の記憶はなかった。	医療機関からの報告
11	20070412	男性	10歳代			異常行動 悪夢 睡眠時遊行症	本年3月15日、朝から38°C台の発熱で自宅にて安静していたが、36°C台になり登校。夜0時前に就寝後、夢の中で何かに追いかけられ、それから逃げようと思ひ飛び降りたら、それが現実だった。本人が気付いたときは自宅の庭であった。翌朝4時に近所の人に発見され、救急車で搬送された。搬送時と病院到着時意識清明。体温39.4°C。インフルエンザB(+)。右第2~4中足骨骨折あり。睡眠脳波、頭部MRI正常。	医療機関からの報告